

# 十亀昭雄先生の著作、「北海道自治研究」掲載論文

## 〔単行本〕（道自治研叢書）

- 〔北海道の政治と民主主義〕 1974年9月
- 〔北海道の政治風土〕 77年11月
- 〔北海道の政治と選挙〕 80年10月
- 〔北海道の自治・政治・文化〕 93年4月

## 〔北海道自治研究掲載論文、座談会〕

- 〔広域圏構想の意図するもの〕 69年12月
- 〔座談会・自治体改革の方向―改めて問われる自治の本質とその対応〕（矢島武・大内基・片平久雄・宇佐美福生・山口哲夫・富永敏・池島信吉・島津信太郎・富岡秀義） 70年1月
- 〔座談会・住民自治の展望と課題〕（塚田庄平・富永敏・松井安信・枝元政雄・高石守彦・吉村博・吉田久・泉秀雄・矢島武・中田鉄雄・池島信吉・山内敏雄・林彰・山口哲夫・斎藤正昭・高橋功一・渡部勇治・富岡秀義） 71年1月
- 〔政策づくりの中の住民〕 71年5月
- 〔座談会・自治体選挙の教訓とその課題〕（五十嵐広三・宇佐美福生・遠藤勝太郎・大内基・高田忠雄・中沢健次・山口哲夫・富岡秀義） 71年7月
- 〔住民意識と地方自治〕 71年10月
- 〔地方自治をめぐる若干の問題〕 72年5月
- 〔46年統一自治体選挙を中心としてみた札幌市民の投票行動〕 72年8月
- 〔池田町年金スライド制に思うこと〕 73年1月
- 〔47年総選挙における札幌市民の支持政党と投票行動〕 73年1月
- 〔自治体の特性と指標〕 73年5月
- 〔住民自治の確立に向けて〕 73年8月
- 〔市民参加を問う〕 73年12月
- 〔革新首長論（試論）〕 75年1月

- 〔道知事選挙結果の底流をさぐる〕 75年5月
- 〔70年代後半の地方政治を考える〕 76年1月
- 〔地方財政「危機」〕と住民共闘 76年11月
- 〔「変わらない政治」を変えるために〕 77年7月
- 〔今次参議院選挙結果の分析〕 77年8月
- 〔「住みよさ」「豊かさ」「魅力」を問い直すとき〕 77年9月
- 〔対談・いま、革新のあり方を問う〕（篠原 一） 77年12月
- 〔北海道の政治構造〕 78年4月
- 〔市政・政策論議の停滞と前進〕 79年1月
- 〔第9回統一地方選挙に思う〕 79年5月
- 〔座談会・革新はいかに活路を求めるか〕（斎藤 稔・小田原要四蔵・三輪修彪・山内敏雄） 79年6月
- 自治研全道集会「パネルディスカッション・自治体革新の方向性をさぐる」（大間知啓輔・山内敏雄・山口哲夫・森尾 昇） 79年12月
- 〔80年代の地方政治、地方自治を展望する〕 80年1月
- 〔シンポジウム・80年代の労働運動〕（横枝元文・宇佐美忠信・岡村 恵） 80年5月
- 〔衆参ダブル選挙の結果を考える〕 80年8月
- 〔中国から日本を考える（上）〕 81年2月
- 〔中国から日本を考える（中）〕 81年5月
- 〔北海道の政治現状と自治体改革闘争〕 81年8月
- 〔中国から日本を考える（下）〕 81年9月
- 〔座談会・北海道農業の可能性を探る〕（太田原高明・溝 和成・黒川博義・加茂繁雄） 81年12月
- 〔座談会・再論・いま革新のあり方を問う〕（篠原 一・山内敏雄） 82年1月
- 〔座談会・地域生活圏闘争の課題〕（佐藤信彦・大原義行・金田誠一・桜庭康喜・金 敬康・森尾 昇・新保 徹） 83年1月
- 〔第10回統一地方選挙に思う〕 83年5月
- 〔座談会・新しい自治を求めて〕（衣笠哲生・横山桂次・山内敏雄） 84年1月
- 〔83年選挙をふり返って〕 84年2月
- 〔道政改革の展望と可能性〕 85年1月
- 〔衆参同日選挙に思う〕 86年8月

「第11回統一地方選挙に思う」 87年5月  
自治研全道集會「パネルディスカッション・地域復権とまちづくり」(大橋良二・

親松貞義・佐藤久哉・越野正弘・長尾正克) 87年1月

「革新自治・地方政党政治の衰退が語るもの」 88年10月

「89年参院選に思う」 89年8月

「座談会・今、何が問われているのか」(篠原 一・富永 哲) 90年1月

「第39回衆院選に思う」 90年3月

「第12回統一地方選挙を考える」 91年5月

「座談会・地方自治、昨日・今日・明日」(藤谷 豊・丸谷金保・中村喜一) 92年

1月

「座談会・リベラルに生きた人」(山内栄治・山内敏雄) 92年4月

「第16回参議院選挙の教訓」 92年9月

「座談会・いま、自治体では」(神原 勝・坪井主税・山内敏雄・横山純一) 93年

1月

「第40回衆院選を考える」 93年8月

「パネルディスカッション・転換期に立つ第三セクター」(大西 潤・枝川敏美・

岡谷繁勝・今村都南雄) 94年9月

「座談会・地方分権を考える」(神原 勝・木佐茂男・横山純一) 95年1月

「座談会・統一地方選挙が問いかけたもの」(神原 勝・山本佐門・山内敏雄) 95

年5月

「第13回統一地方選挙再考」 95年6月

「第17回参議院選挙を考える」 95年8月

「戦後道知事選挙を考える」(特集・戦後50年) 95年11月

「座談会・第41回衆議院選挙が問いかけたもの」(山本佐門・新川敏光・山口たか)

96年11月

「追悼の辞」(山内敏雄氏追悼号) 98年7月

設立30周年記念シンポジウム「21世紀の地方自治を展望する」(辻山幸宣・柏木 栄・

五十嵐広三) 98年10月

「座談会・統一地方選挙と地方自治」(山本佐門・神原昭子・相内俊一・清水敏行)

99年5月

「座談会・議会改革と議員活動」(阿部義人・大島 薫・佐々木恵美子・桜庭康喜)

99年8月

「シンポジウム・改めてまちづくりを考える、個性があるから自治体・地域が北海道をつくる」(齊藤敏幸・相良主彦・中港嗣哉・神原 勝) 2000年7月

「座談会・第42回衆議院議員選挙結果と今後の展望」(山本佐門・新川敏光・山口幸子)

2000年8月

「座談会・二期目折り返しにきた堀道政―過去六年間を振り返り、今後の道政を展

望する」(川村喜芳・中川有三・信田邦雄・長谷川静) 2001年4月

「鼎談・第19回参議院選挙を総括して―何が問われ、何が選択されたか」(相内俊一・

中島和子) 2001年10月

「鼎談・わたしたちはどんな時代を生きてきて、日本はどこへ行くのか」(森尾 昇・

山内栄治) 2004年1月

## 「北海道自治研究・巻頭言」[鋭角鈍角]

「地方自治とイデオロギー」 78年7月

「変革の主体形成への期待」 79年9月

「『まさか』的発想の盲点」 80年6月

「政治における責任」 81年10月

「8月15日に思うこと」 82年8月

「二つの選挙を終えて」 83年7月

「『必要の哲学』と『可能性の技術』との対話」 86年2月

「地方の『衰弱』」 87年2月

「『変わる』と『変える』」 88年2月

「おらが町のオーダーメイド」 89年2月

「町づくり活性化の多様性」 90年2月

「実り少ない『改革』の思想風土」 91年1月

「激動・激変と思考の活性化」 92年1月

「25年の足跡に思う」 93年1月

「研究所を考える『北海道自治研究』300号にあたり」 94年1月

「戦後50年地方自治の年輪を思う」 95年1月

「『実り少ない改革の思想風土』再論」 96年1月

「1997年新春 人間・自治断層」 97年1月

「人間学・政治学・自治論徒然」 98年1月

「1999年・回顧と展望」99年1月  
 「2000年・内なる研究所と自問自答」2000年1月  
 「世紀の変わり目も自問自答」2001年1月  
 「世紀のはざまの激震と『改革』の小さな物語」2002年1月  
 「五十年前の『政治学演習』に遡って」2002年11月  
 「三つの書物群から今を思い見る」2003年10月

## 十亀昭雄先生の略歴

1929（昭和4）年4月29日

道北の上川管内美深町で生まれる

36年4月 美深尋常高等小学校入学  
 42年4月 北海道庁立名寄中学校入学（現北海道名寄高校）  
 46年4月 北海道大学予科農類入学（48年文類へ）  
 48年 北大サッカー部キャプテンとして東北・北海道サッカーインターハイ優勝。京都全国大会を辞退し、その責任を感じ恵迪寮を退寮、下宿生活に入る  
 50年4月 北海道大学法経学部政治学科に入学  
 51年4月 同学部学生自治会執行委員長に選出される  
 53年3月 北海道大学法経学部政治学科卒業。4月、北海道大学法経学部大学院特別研究生に採用。指導教官の許可を得て、札幌市立創成工業高校（現北海道札幌工業高校）夜間部の講師として社会・英語・体育を担当。  
 54年4月 同大学法学部助手。この年、東大法学部に留学、辻清明教授（行政学）研究室に出入りし「職業としての学問」を始める。以後、大学教師退職までに約50年間、札幌市立図書館、弘南堂古書店など頻々に足を運ぶ（蔵書は1万5千冊以上）  
 58年 北海道学芸大学（現・北海道教育大学）講師  
 59年 同大学助教授。この年、松久恵利子さんと結婚  
 63年10月 北海道新聞社の「地方選挙を考える（上中下）」（『北海道の政治と選挙』所収）連載が発端で、以降30年以上の一貫した息の長い北海道の政治と選挙との取り組みのスタートとなる。「田舎の政治学」を自認する

65年6月 アメリカ国務省招待にて2カ月アメリカの地方自治と黒人問題の視察。相当量の原書を購入して帰札。

66年 この頃から、自治労の自治研助言者、北教組の共同研究者として、さらに全道労協傘下の労働組合、農民組合、PTA、市民団体等々の講師として、全道各地を駆け回る。共に学び、懇親会では地元の人たちと酒を酌み交わす

68年 社団法人北海道地方自治研究所が設立され理事に（83年副理事長、92年）2001年理事長

72年 北海道教育大学札幌分校教職員組合執行委員長

73年 教育大学（札幌分校）教授

74年 この年、札幌市長選挙の革新系候補として出馬要請される。が、固辞し不出馬

77年 自称「田舎の政治学」研究の傍ら、この年の札幌市民マラソンに初参加。

この頃から本格的に「マラソン人生」スタート（日航千歳マラソン、青梅マラソン、別海マラソンなど道内外の大会に数多く出場、いずれも完走）  
 札幌都市研究センターが発足、副理事長（88年〜2004年理事長）

83年 「君たちはどう生きるか」刊行50周年記念シンポジウム（教育会館・市民集会）にパネリストとして参加。同年、教育大学は札幌市中央区から

87年8月 北区あいの里へ移転。  
 北区あいの里へ移転。

91年 建て替えた家の20坪の書庫書齋に600箱のダンボールの本を取めるのに2カ月を要する。「高血圧」のレッテルを貼られ、その克服を試行

93（平成5）年 北海道教育大学を定年退官、北海学園大学法学部教授  
 2000年3月 北海学園大学を定年退職

2013年5月29日 逝去（84歳）